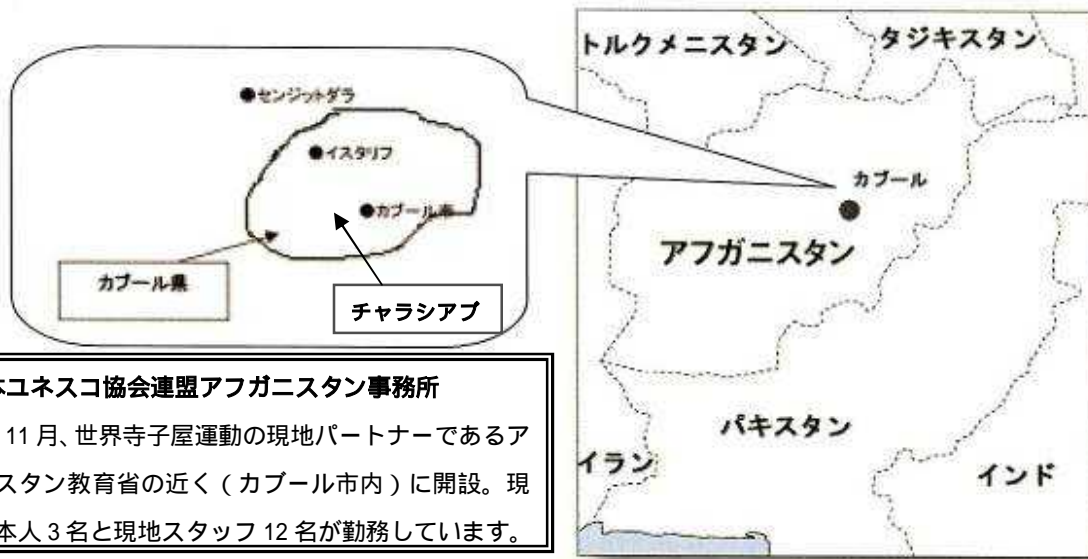


アフガニスタン 教育支援情報



日本ユネスコ協会連盟アフガニスタン事務所

2002年11月、世界寺子屋運動の現地パートナーであるアフガニスタン教育省の近く（カブール市内）に開設。現在、日本人3名と現地スタッフ12名が勤務しています。

JICA 共同プロジェクト 寺子屋の学習者が講師に！

昨年の6月よりアフガニスタンでノンフォーマル教育のモデルを作るべく、JICA（国際協力機構）と共に“CLC (Community Learning Center)”の運営、識字局員の研修、教材開発などの活動を実施しています。去る5月17日、カブール市内のCLCの運営委員を対象とした「収入向上研修」において、日本ユネスコ協会連盟が独自に支援しているイスタリフ村（カブール県）とセンジットダラ村（パルワン県）の寺子屋の学習者が「どのように収入を得てCLCを安定的に運営していくか」について、初めて自分たちの経験を紹介しました。



講師になったのは若手のホープ、イスタリフ村のアザムさん（写真上）とセンジットダラ村のホマコンさん（写真下）。アザムさんは村で行われている皮細工について、「この試みは、村に皮細工職人がいたことがきっかけで始まった」、「日本ユネスコ協会連盟から渡された材料（カバン用の皮15個分）を元手に制作を開始し、現在では常に月30個のカバンを販売している」、「余剰利益はCLCの運営コストとして活用している」など、参加者27人の前で熱弁を奮いました。



一方、服の仕立てで収入向上を達成したセンジットダラ村のホマコンさんからは、「当初男性用の伝統衣装（ペイロン・トゥンボン）の製造・販売を試したものの利益が出なかった」、「カラーのデザインやサイズなどを変えて種類を増やした」、「顧客の好みに合うようにしたら利益が出始めた」、「今では110アフガニ（1アフガニ=2.3円）の材料費で服を作り、それを300-500アフガニで販売できるようになり、利益はやはりCLCの運営に回している」など苦労話が紹介されました。

共同プロジェクト」は来週お伝えします。

過去のアフガニスタン教育支援情報は [こちら](http://www.unesco.jp/afghanistan/topics.htm)
アフガニスタン事務所のホームページは [こちら](http://www.unesco.jp/afghanistan/index.html)

